

解剖症例・研修医によるCPC開催

CPCレポート作成について

病院内で行われる病理解剖には積極的に同席し、CPCには、できるだけ参加しましょう。

病理解剖実施時には、病理医または解剖依頼した主治医を通して連絡があります。臨床で関わった患者の解剖に関わり、CPC実施・レポート作成が望ましいが、研修早期より積極的に取り組んでいきましょう。

<研修医によるCPC開催～レポート作成>

1) 病理解剖に関わった場合、主治医・病理医と相談し、『研修医によるCPC』実施するか決定する。

2) 主治医と病理医の指導を受け、CPC開催の準備をする。

*院内ポスター等事務的処理は、教育研修推進室が支援する。

3) 『研修医によるCPC』開催

*(原則として)

司会：臨床研修プログラム責任者

コメンテーター：主治医

*会場準備・資料印刷等は、教育研修推進室が支援する。

4) レポートの作成

*CPCレポートの表紙のフォーマットは、研修医パソコンデスクトップ参照

*レポート作成にあたっては、文献（田村浩一『臨床研修必携 CPC レポート作成マニュアル』南江堂.2004→図書室に有り）を参考にする。主治医、病理医の指導を受け、必要時修正を行う。

*レポート作成後、指導医、病理医の捺印を受け、教育研修推進室へ提出。

（レポートは研修医へ返却されません）

*レポートには表紙・病理解剖報告書・発表時のスライドを掲載して下さい。

研修目的：剖検症例の臨床経過を詳細に検討して問題点を整理し、剖検結果に照らし合わせて総括することにより、疾病・病態について理解を深める。

研修方法：死亡患者の家族への剖検の説明に同席し、剖検に立ち会う。CPC においては、症例レポート作成は不要とするが、症例提示を行い、フィードバックを受け、考察を含む最終的なまとめまで行う。

CPC の開催については、関係臨床科医師および病理医の出席を求める必要がある。出席者の把握のほか、議事録等を作成することが望ましい。なお、臨床研修協力施設と共同して臨床研修を行う場合には、CPC を開催している臨床研修協力施設において適切に CPC 研

修が行われるように配慮しなければならない。

研修医はCPC研修の症例提示において、少なくとも何らかの主体的な役割を担うことが必要であり、CPCのディスカッションで積極的に意見を述べ、フィードバックを受けることが求められる。

臨床経過と病理解剖診断に加えて、CPCでの討議を踏まえた考察の記録が残されなくてはならないので当院ではCPC終了後にレポートを作成することとする。